【草花の部屋】

エンドウ（マメ科エンドウ属　Pisum sativum ）

和名：エンドウ(豌豆)　別名：ノラマメ、グリーンピース、サヤエンドウ

英名: Feld Pea、Garden Pea、Sugar Pea

マメ目　一・二年草　　原産地：地中海地方

花言葉：いつまでも続く楽しみ　　花の色：　白、紫

← 写真-１　エンドウ
撮影日：2016 年 04 月 21 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

↓ 写真-２　エンドウ
～ツタンカーメンの花
撮影日：2016 年 04 月 21 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

← 写真-３　エンドウ～ツタンカーメンの莢(さや)
撮影日：2016 年 04 月 21 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

郊外の家庭菜園で見かけました。以前、どこかで見かけていたとは思いますが。ツタンカーメンの紫色の莢を見た記憶は今一・・。紫色の花の記憶はあります。ただ、名前までは・・。

エンドウ・・。古代オリエント地方や地中海地方で栽培されてきた豆で、原産地域のフェルガナ(ウズベキスタン)から漢に伝来した際に、フェルガナの中国名が大宛国であることから豌豆（えんどう＝宛の豆）と名付けられたことが名の由来となっているそうです。

莢の硬さにより、硬莢種（こうきょうしゅ） P. s. ssp. arvense Poir. と軟莢種（なんきょうしゅ）P. s. ssp.hortense Asch. があります。硬莢種は、莢が固く、主に完熟して乾燥した豆を収穫して利用。花は紅色。軟莢種は莢が柔らかく、未熟な莢をサヤエンドウとして利用したり、成長を終えて乾燥前の生の豆をグリーンピースとして利用。花は白いものが多いそうです。スナップエンドウは軟莢種の中でも豆が大きく成長しても莢が柔らかく、豆と莢の両方を野菜として利用できる品種。

マメ科の植物は、根粒菌による土の肥沃化に効果があることは、知られている通りです。が、エンドウは連作に弱く、一度栽培した土地では数年間栽培が困難。また、酸性土壌にも弱い。

ツタンカーメンですが・・。古代エジプトのツタンカーメン王の墓から出土した豆の子孫といわれ、１９９２年にツタンカーメンの墓を発掘した際に数多くの副葬品の中から見つかったとされ、それを持ち帰って発芽、栽培に成功し、「ツタンカーメンのエンドウ豆」として各地に広められたそうです。

日本には 1956 年にアメリカから伝わり、古代エジプトにまつわるエンドウ豆として主に学校関係など教育機関を中心に広がったようです。

このツタンカーメンのエンドウ豆、蔓の様子は普通のエンドウ豆と変わらないのですが、エンドウの花が白いのに対して、このツタンカーメンのエンドウ豆の花は紫色を・・。そして何よりも、莢の色が濃い紫色。この紫色は熟すにつれ少し薄れて、地の緑色が透けて見えるような感じになってきた頃が収穫時だそうです。また、中の実（豆）の色は普通のエンドウと同じグリーンです。食べ方も同じように食べられます。